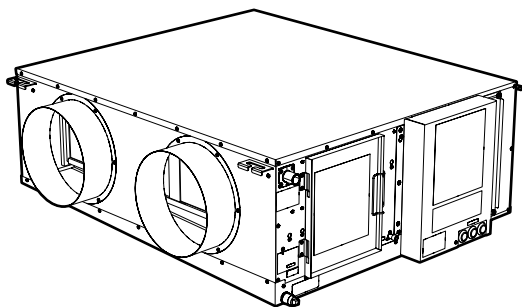


単独運転・室内直接加湿
ダクト接続型 滴下浸透気化式加湿器

WM-VIB タイプ

施工要領書



VIB2700/VIB2700A VIB5200/VIB5200A

加湿器本体の標準仕様（VIB2700/VIB5200）とヒューミディスタット内蔵型（VIB2700A/VIB5200A）は構造、制御が異なるため、現地での変更・切り替えはできません。

- このたびはウエットマスター滴下浸透気化式加湿器をご採用いただき、まことにありがとうございます。
- この施工要領書には加湿器本体の取付、給排水接続、電気配線（計装）など、加湿器の施工に関する説明、安全についての注意事項などを記載しています。この製品の性能・機能を十分に発揮させ、また安全を確保するために、作業の前に必ずお読みいただき、正しい施工を行ってください。
- 本書の内容以外に関する説明は下記を参照し、該当するドキュメントをご確認ください。

設定要領書	試運転作業要領書	取扱説明書
加湿器運転のために必要な設定手順や、出荷時設定から変更を行う場合の手順について記載しています。	施工およびリモコンスイッチ初期設定完了後、加湿器が正常に作動するかの試運転手順について記載しています。	運転動作、運転管理、一般保守要領など、加湿器の取り扱いについて記載しています。
		

- 本製品は給水装置の性能基準適合品（第三者認証品：（一財）電気安全環境研究所）で、水道管への直接連結が可能です。

給水装置の第三者認証について

水道法第16条に基づく給水装置の構造及び材質の基準に関する省令に対し、給水器具等の認証機関である一般財団法人 電気安全環境研究所（JET）で耐圧性能、水撃限界性能、逆流防止性能、負圧破壊性能などの性能基準への適合確認および生産工場の品質管理体制等の確認を行って認証を取得し、加湿器本体銘板に認証マークを表示しています。



もくじ

安全のために必ず守ること…………… P.1

1 施工前の確認事項

1-1 梱包内容（付属品）の確認……………	P.3
1-2 使用場所の制限について……………	P.4
1-3 使用条件の確認……………	P.4
1-4 給水水質について……………	P.4
1-5 グループ制御パターンの確認……………	P.5
1-6 客先ご用意の部材など……………	P.7

2 施工

2-1 取付……………	P.8
2-2 給排水配管……………	P.12
2-3 電気配線……………	P.16

3 各種図面

VIB2700/5200 結線要領図……………	P.18
VIB2700/5200 結線参考図……………	P.19
VIB2700/5200（ヒューミ付リモコン付属）結線要領図……………	P.20
VIB2700/5200（ヒューミ付リモコン付属）結線参考図……………	P.21
VIB2700A/5200A 結線要領図……………	P.22
VIB2700A/5200A 結線参考図……………	P.23
VIB2700A/5200A（ヒューミ付リモコン付属）結線要領図……………	P.24
VIB2700A/5200A（ヒューミ付リモコン付属）結線参考図……………	P.25
VIB2700/5200/2700A/5200A 結線参考図……………	P.26

4 仕様

4-1 VIB2700/5200……………	P.27
4-2 VIB2700A/5200A（ヒューミディスタット内蔵型）……………	P.28
4-3 ヒューミ付リモコン……………	P.29

施工前の確認事項

施工

各種図面

仕様

安全のために必ず守ること

- ・この「安全のために必ず守ること」をよくお読みの上、取り扱ってください。
- ・ここに記載した注意事項は、安全に関する重大な内容です。必ず守ってください。
- ・誤った取り扱いをしたときに生じる危険とその程度を、次の表示で区分して説明しています。

 警告	誤った取り扱いをしたときに、使用者が死亡、重症を負う可能性があるもの
 注意	誤った取り扱いをしたときに、使用者が軽傷を負う可能性や物的損害の発生に結びつくもの

・図記号の意味は以下のとおりです。

 必ず守る	 絶対しない	 触らない	 濡手禁止 絶対に濡れた手で触らない	 水濡禁止 絶対に水に濡らさない
---	--	---	---	---

警告



取付工事は製品添付の説明書類に従って 確実に行う

必ず守る 取付工事に不備があると、水もれや感電、火災等の事故の原因になります。



加湿器元電源には、必ず加湿器専用の 漏電ブレーカを取り付ける

必ず守る 漏電ブレーカが取り付けられていないと、感電の原因になります。



取付工事は、専門業者に依頼する

必ず守る 取付工事に不備があると、水もれや感電、火災等の事故の原因になります。



定格電圧、制御容量範囲内で使用する

必ず守る 誤った電源で使用すると感電・火災などの原因になります。



高所作業時の安全を確保する

必ず守る 高さが2メートル以上の箇所で作業を行うときは、適正な足場を確保し安全帯を使用する等、墜落による作業者の危険を防止するための措置を講じてください。



アース接続（D 種接地工事）を必ず行う

必ず守る アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アースが不完全な場合は、感電の原因になります。



製品の大きさ、重さに注意する

必ず守る 取付には製品を支持する揚重機等を使用し、作業者の危険を防止するための措置を講じてください。



活線作業を行う際は、絶縁用保護具を着用 するか、活線作業用器具を使用する

必ず守る 適切な保護具、器具を使用しない場合、感電の原因になります。



取付は、質量に十分耐える所に確実に行う

必ず守る 強度が不足している場合は、落下や転倒等による事故の原因になります。



作業時は、けが防止のため 保護用手袋を着用する

必ず守る やけど・けがの原因になります。



工事部材は付属品および指定の部材を 使用する

必ず守る 寸法や材質等の適合しない部材を使用すると、落下・水もれ・感電・火災などの原因になります。



電気・電子機器等、濡れて困る物の上に 加湿器を設置しない

絶対しない 漏電火災や事故の原因になります。



電気工事は、電気工事士の資格のある方が、 「電気設備に関する技術基準」「内線規定」 および製品添付の説明書類に従って施工する

必ず守る 電源回路要領不足や取付不備があると感電・火災の原因になります。



改造はしない

絶対しない 故障や水もれ・感電・火災の原因になります。



電気配線は所定のケーブルを使用して確実に 接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わ らないように確実に固定する

必ず守る 接続や固定が不完全な場合は、発煙、火災の原因になります。



濡れた手で電気部品に触れたり、スイッチ・ ボタンを操作しない

濡手禁止 感電・事故・発煙・火災の原因になります。



運転中および運転停止直後の電気部品に 素手で触れない

触らない やけど・感電の原因になります。

⚠️ 注意



必ず守る

水道法、消防法等に規制される部材の取扱いについては、専門業者に依頼する

正しい取り扱いがされない場合、法令違反になることがあります。



必ず守る

上水道直結の配管工事は、当該自治体（水道事業管理者）の認定水道工事業者が施工する

正しい施工がされない場合、水もれや、水質悪化の原因になります。



必ず守る

給水の水質は、水道法に定められた水道法水質基準に適合した飲料水を使用する（上水道の使用を推奨）

水質が不適当な場合は、室内空気の汚れの原因になります。



必ず守る

凍結の恐れがある地域では、必ず凍結防止工事を行う

配管・減圧弁などが破裂し、水もれの原因になります。



必ず守る

加湿用給水配管の縦配管および横引き配管には必ずフラッシング用バルブを取り付ける

加湿用給水配管は加湿シーズンオフには通水が無いため、配管内残留水の塩素は消滅します。清潔な加湿を行うために、施工時に限らず加湿シーズンイン時には必ずフラッシングが必要となります。



必ず守る

給排水配管は本書にしたがって確実に給水・排水するように配管し、結露が生じないように断熱する

配管工事に不備があると水もれの原因になります。



必ず守る

製品の運搬は十分注意して行う

原則二人以上で行ってください。ケガや落下による破損の原因になります。



絶対しない

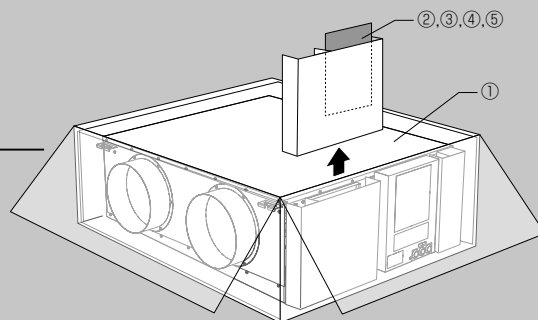
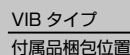
移動できないものの上に加湿器を設置しない

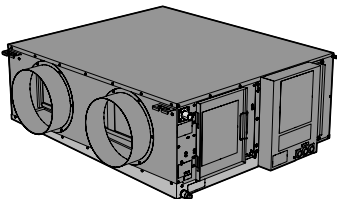
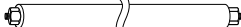
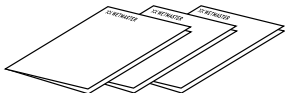
後々のメンテナンスができなくなる恐れがあります。

施工前の確認事項

施工

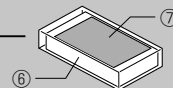
- 各種圖面

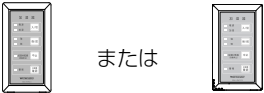
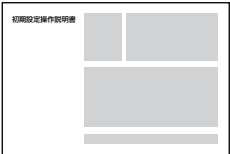


梱包内容 / 部品名称	仕様など	形状	個数
①加湿器本体 VIB2700、VIB2700A、 VIB5200、VIB5200A のいずれか	ドレン排水用ポンプ内蔵 (VIB2700A、VIB5200A は ヒューミディスタット内蔵型)		1 台
②給水軟銅管	φ 6.35 × 0.4 m、 リングジョイント式 断熱材被覆付		1 本
③給水ストレーナ	T型、# 100、R1/2		1 個
④排水ホース	塩ビ φ 30 × φ 25 × 0.2m ホースバンド 2 個付		1 本
⑤説明書類*	施工要領書、設定要領書、試運転作業要領書		各 1 冊

仕
様

リモコンスイッチ
付属品梱包位置



梱包内容 / 部品名称	仕様など	形状	個数
⑥リモコンスイッチ 標準リモコンスイッチ (VKRM-3) またはヒューミ付リモコン (HRM103)	—	 標準リモコン スイッチ ヒューミ付リモコン	1 個
⑦初期設定操作説明書	—		1 部

1-2 使用場所の制限について

- 滴下浸透気化式加湿器は、下記のような現場では使用できないことがありますので、事前に当社宛お問い合わせください。
 - * 通気、設置場所に腐食性ガスが予想される場合
 - * 厨房、食品工場その他、通気に塩分やオイルミストを含むおそれのある場合
 - * 機械工場など、通気に金属製の塵埃を含むおそれのある場合
 - * 病院などの清浄度を要求される特殊空調

1-3 使用条件の確認

- 下記の使用条件などを満足していることを確認してください。

定格電源	AC100V (50/60Hz 共用)
設置・保管時の本体周囲温湿度	5～40℃ (凍結しないこと) 80% RH 以下
吸込空気温度	5～30℃ (天井内本体周囲温度との差は 10℃ 以内のこと) * 30℃ 以上になる場合は、弊社宛ご相談ください。
給水水質	水道法水質基準に準ずる飲料水 (P.4 「1-4 給水水質について」 参照)
給水圧力	0.05～0.5MPa
給水温度	5～30℃

1-4 給水水質について

- 給水の水質は、必ず水道法に定められた水道法水質基準に適合した飲料水をご使用ください（上水道の使用を推奨します）。本体内蔵のドレン排水用ポンプはレベルセンサ(電極ピン)により水位を検知するため、純水は使用できません。また、軟水器を使用すると軟質のスケールが析出し、飛散することがありますので、軟水を供給しないでください。

加湿モジュールは、使用によって汚れが堆積するため、加湿能力および加湿による気化冷却効果が徐々に低下します。以下の点にご注意ください。

- * 汚れの量は、水質や運転環境の様々な要因によって変化しますので定期的に監視し、汚れの質や量に応じた洗浄方法、洗浄サイクルを定めてください。水道法水質基準に準じている場合でも、全硬度、シリカ成分量などが多ければ、それだけ汚れやスケール成分の析出量も多くなる可能性があります。参考として、(一社)日本冷凍空調工業会標準規格では「冷凍空調機器用冷却水水質基準 (JRA-GL02-1994)」において、冷却水の補給水の水質についてスケールの傾向に影響を与える項目と基準は、pH (25℃) : 6.8～8.0、導電率 (25℃) : 30mS/m 以下、酸消費量 (pH4.8) : 50mgCaCO₃/ℓ 以下、全硬度 : 70mgCaCO₃/ℓ 以下、カルシウム硬度 : 50mgCaCO₃/ℓ 以下、イオン状シリカ濃度 : 30mgSiO₂/ℓ 以下とされています。ただし、上記基準を満たした水でも、地下水・井戸水・地下水を利用した専用水道・工業用水を利用した水の使用では、その含有成分の影響で早期のスケール発生やスケール飛散が生じる場合がありますのでご注意ください。また、軟水器処理水および軟水器処理水と地下水・井戸水・地下水を利用した専用水道・工業用水との混合水は使用しないでください。軟質のスケールが析出し、飛散することがあります。

1-5 グループ制御パターンの確認



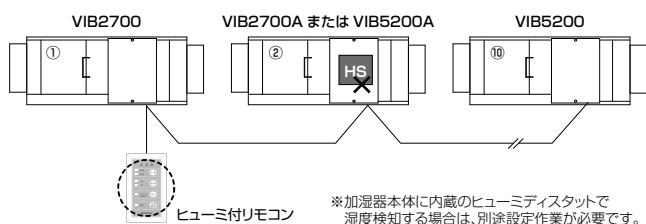
注意

事前に計画された制御方法・設置場所に設置する

❗ 事前に計画された制御方法・設置場所に設置されない場合、正常な湿度検知ができないことがあります。

- 本書は下記に示す 4 種類のグループ制御パターンを標準とし、標準制御する場合の説明を記載しています。
- ヒューミディスタット内蔵型 VIB2700A・VIB5200A は、グループ制御、加湿制御を行う際に設置上の制約があります。
- 下記の標準グループ制御パターンに合致しないグループ制御を行う場合は追加で別途設定等が必要となりますので、P.6 のフローチャートで計装パターンを確認してください。

標準グループ制御 パターン①



加湿器

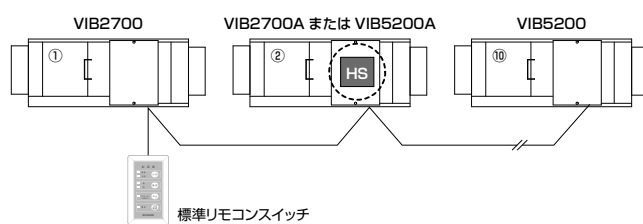
- VIB2700/VIB5200 (複数台)
- VIB2700A または VIB5200A (1 台)

リモコン

- ヒューミ付リモコン

- 湿度検知
ヒューミ付リモコンに内蔵のヒューミディスタットで湿度検知を行う

標準グループ制御 パターン②



加湿器

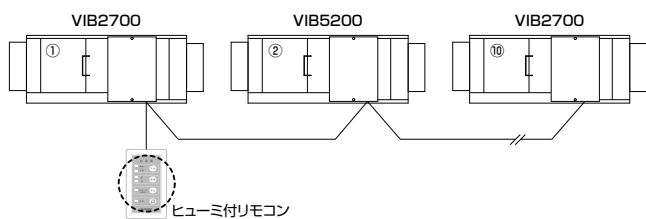
- VIB2700/VIB5200 (複数台)
- VIB2700A または VIB5200A (1 台)

リモコン

- 標準リモコンスイッチ

- 湿度検知
VIB2700A または VIB5200A に内蔵のヒューミディスタットで湿度検知を行う

標準グループ制御 パターン③



加湿器

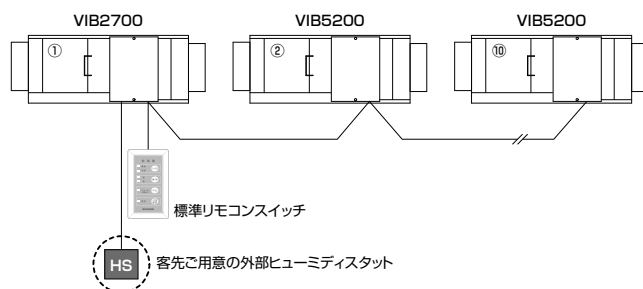
- VIB2700/VIB5200 (複数台)

リモコン

- ヒューミ付リモコン

- 湿度検知
ヒューミ付リモコンに内蔵のヒューミディスタットで湿度検知を行う

標準グループ制御 パターン④



加湿器

- VIB2700/VIB5200 (複数台)

リモコン

- 標準リモコンスイッチ

- 湿度検知
客先ご用意の外部ヒューミディスタットで湿度検知を行う

1-6 客先ご用意の部材など

- 付属品のほか、下記の客先ご用意の部材などを確認してください。また下記以外の部材については、現場の必要に応じて適宜で用意ください。

施工内容	必要部材など	注意事項	
加湿器本体取付	吊ボルト用アンカー 吊ボルト ナット	- 加湿器本体の運転時質量は VIB2700、VIB2700A：30kg、VIB5200、VIB5200A：47kg です。荷重に十分に耐えられるだけの強度を確保してください。 - 吸込口、吹出口の位置、および加湿器本体周囲スペース（サービススペース）を確認して施工してください。	
給水配管	配管部材	- 施工後にもフラッシングが行えるように、加湿用給水配管の縦配管および横引き配管には必ずフラッシング用バルブをご用意ください。 - 加湿用給水配管は暖房加湿ではシーズンオフには通水がないため管内の腐食が発生しやすく、また配管残留水の加湿器への流入防止の意味からも、施工当初に限らずフラッシングが必要になります。 - 本加湿器は給水器具等の認証品です（第三者認証品）。上水道直結の配管工事は、当該自治体（水道事業管理者）の認定水道工事業者が施工し、当該自治体（水道事業管理者）などで指定された給水配管材料をご使用ください。 - 給水配管の施工に配管シーラントを使用する場合、配管シーラントメーカーの取扱上の注意に準拠してお願いします。また、十分なシーラント乾燥時間を確保してください。塗布量が多かったり乾燥が不十分な状態で通水すると、シーラントが給水に混ざる形で加湿器本体内に流入することになり、加湿器内でのシーラント固化により故障の原因になります。また、配管シーラントには有機溶剤成分が含まれているため、加湿器に流入した場合は構成部品に悪影響を及ぼすことがあります。加湿器への通水の前には加湿器給水配管の縦配管および横引き配管のフラッシング用バルブなどから十分なフラッシングを行い、フラッシング実施後の水が無色透明、無臭であることを確認してください。	
	給水サービス弁	保守点検作業のため、必ず加湿器 1 台に 1 個設けてください。	
	保温材	配管結露防止のため、必ず施工してください。	
排水配管	配管部材	- 付属の排水ホース、排水継手、ホースバンドを必ず使用してください。 - 横引き配管の場合、配管径は 20A 以上としてください。また、必ず 1/100 以上の先下がり勾配とし、先端は大気開放としてください。 - 排水配管を立ち上げる場合、立ち上げ配管は塩ビ管（呼び径 20mm）を使用してください。また、立ち上げ以後の横引き配管は配管径 20A 以上とし、1/100 以上の先下がり勾配となるように施工してください。φ 19、20 の市販排水ホースをご使用の場合は P.15 図 -11 市販の排水ホースを使用して排水配管を立ち上げる場合をご確認ください。	
	保温材	配管結露防止のため、必ず施工してください。	
電気配線	各種配線材など	リモコンスイッチの取り付けには JIS ボックス（JIS C 8340 適合品）が必要です。下記の該当する組み合わせの各ページを参照し、誤配線や未配線のないように注意して確実に施工してください。	
		VIB と標準リモコンスイッチの組み合わせ	P.18「結線要領図」、P.19「結線参考図」
		VIB とヒューミ付リモコンの組み合わせ	P.20「結線要領図」、P.21「結線参考図」
		VIB-A と標準リモコンスイッチの組み合わせ	P.22「結線要領図」、P.23「結線参考図」
		VIB-A とヒューミ付リモコンの組み合わせ	P.24「結線要領図」、P.25「結線参考図」
その他	天井面点検口	加湿器本体配管側の天井面に必ず設けてください。	

2 施工

2-1 取付

2-1-1 加湿器本体の取付



注意

本体の重さに十分耐える所に確実に取り付ける

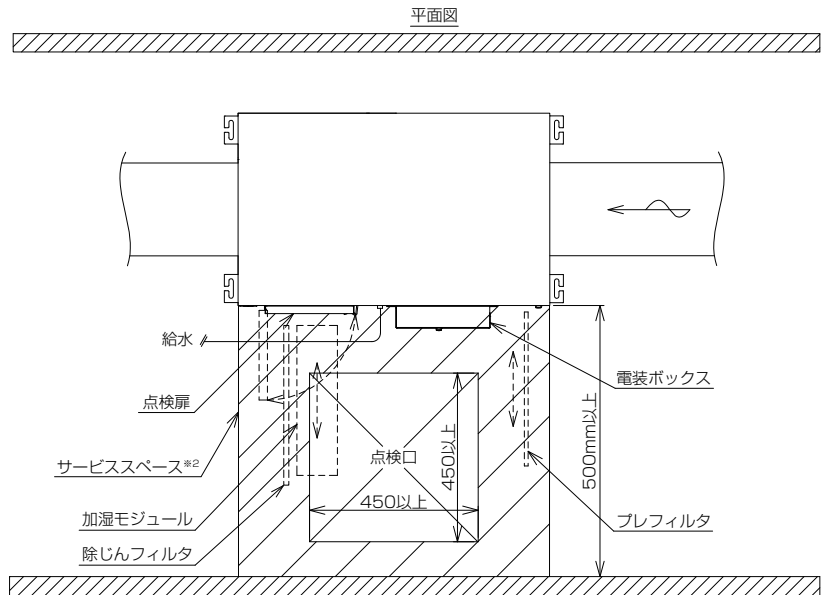
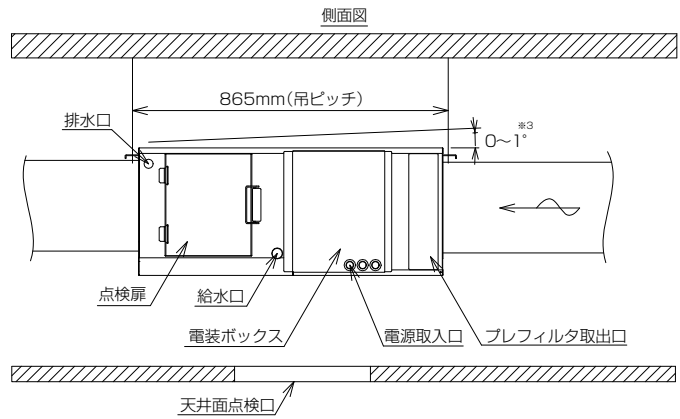
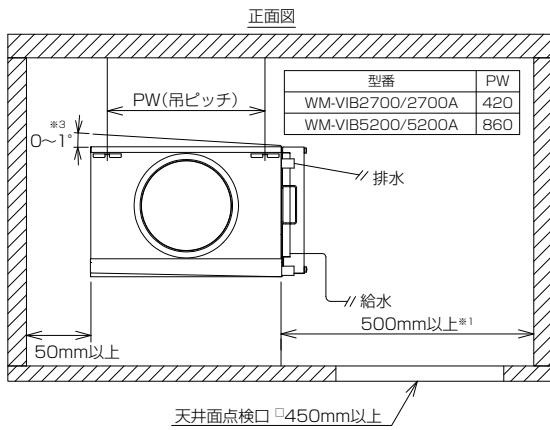
❗ 強度不足や取付工事に不備があると、落下などによる事故の原因になります。

本体内への異物の混入や取付時の加湿モジュールの損傷にご注意ください。

加湿器本体は水準器を使用し、水平に取り付けてください。正しく施工されないとフロートスイッチの誤動作をまねき、水漏れの原因になります。やむを得ず水平に取り付けられない場合は、排水(点検扉)側に 1° 以内、風下側に 1° 以内の傾きに収めてください。また、本体の天地および気流方向にご注意ください。

- 取り付けにあたっては、加湿器本体点検扉側に保守点検が容易にできるサービススペースを 500mm 以上確保してください(P.9 図-1)。サービススペースは加湿モジュール、フィルタ等を引き出すために必要なスペースです。
- 加湿器本体取付位置の天井面(加湿器本体の配管側)には □ 450 以上の点検口を設置してください。
- 加湿器本体は取付方向(気流方向)に制限があります。ダクト接続は気流方向を確認のうえ接続してください。
- 加湿器本体を取り付ける位置に吊ボルトを取り付け、必ずダブルナットで固定してください。吊ボルトは耐震など必要に応じて揺れ止め用耐震支持部材にて補強してください。
- あらかじめ各ボルトにナットを 1 個通し、本体を吊り上げてもう 1 つのナットで仮止めします。水準器を使用し、加湿器本体を水平〔水平に取り付けられない場合は、排水(点検扉)側に 1° 以内、風下側に 1° 以内の傾きに収める〕に取り付けて本締めしてください。
- ダクトサイズはφ 250 です。市販のダクトをダクト接続口に差し込み、バンドやアルミテープ等でエアリークのないように取り付けてください。
- 加湿器本体にダクトの荷重がかからないように設置してください。
- ダクトは極端な曲げ、多数曲げ、ダクト接続口近くで曲げのないようにしてください。加湿量の低下や異常音発生の原因となります。
- 加湿器出口側空気は高湿です。ダクト、吹出口内は結露防止のため必ず保温処理を施してください。また、吹出空気が窓や壁面などに直接あたると結露するおそれがありますので、吹き出しの種類、取付位置にご配慮ください。
- ダクト接続前には、加湿器内ドレンパン上にゴミ、異物などがいないことを確認してください。
- 必要に応じて保温処理を施してください。
- ダクト接続後は水準器を使用し、再度本体の取付が水平であることを確認してください〔水平に取り付けられない場合は、排水(点検扉)側に 1° 以内、風下側に 1° 以内の傾きに収める〕。
- 空気清浄度を管理されている室内、施設を対象に加湿器をご使用になる場合は、加湿器を組み込んだ空調系統の加湿器二次側に、要求清浄度を満足できる能力を有する最終フィルタを設置してください。
- 当加湿器のダクト系統にはエアコンや電気ヒータを接続しないでください。エアコンの冷房運転による加湿器外部の結露や電気ヒータによる過加湿の原因となります。
- ブースターファンを接続する場合は吸込側とし、吹出側へ接続しないでください。また、過度の風量増は加湿モジュールからの水滴飛散や早期スケール発生およびスケール飛散の原因となりますのでご注意ください。

図-1 本体周囲スペース



- ※1：加湿モジュール、フィルタ等を引き出すために必要なスペースです。
- ※2：後々の保守作業のため、サービススペースを確保し、給水配管や電気配線、梁などによる支障が無いように配慮してください。
サービススペースが確保されていない場合は保守作業が行えないおそれがあります。
- ※3：加湿器本体は水準器を使用し、水平に取り付けてください。やむを得ず水平に取り付けられない場合は、排水（点検扉）側に1°以内、風下側に1°以内の傾きに収めてください。

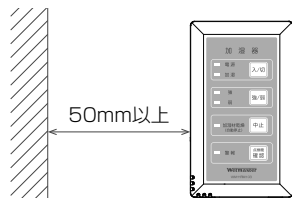
2-1-2 リモコンスイッチの取付と配線要領

- リモコンスイッチは必ずご使用ください。リモコンスイッチを使用しないと運転できません。
- リモコンスイッチ取付にあたって、JIS ボックスをご用意ください(JIS C 8340 適合品、ピッチ 83.5mm、客先ご用意)。
- リモコンスイッチの取付と配線終了後は、リモコンスイッチ初期設定を行ってください(別冊の設定要領書を参照)。

①リモコンスイッチ下面の凹部に、マイナスドライバを差し込んで軽くねじり(2箇所)、上ケースを外してください(図-2)。

②壁面の JIS ボックスに下ケースを取り付けます。

- 取付用のネジは JIS ボックスに合わせて現地でご手配ください。
- ヒューミ付リモコンの場合、リモコンスイッチのサイドスイッチ操作と湿度感知に影響するため、**壁面へ取り付ける際は左側面から 50mm 以上の空間を確保してください。**

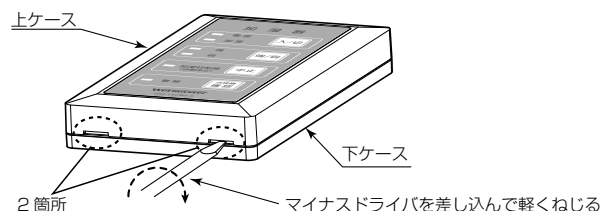


③配線引込穴から配線を引き込み、リモコンスイッチ基板の端子に接続します(図-3)。

- 線材は 0.5 ~ 0.75mm² のシース付きビニルコードまたはケーブルをご使用ください(客先ご用意)。
- 配線は M3 ねじ用裸丸端子を使用し、リモコンスイッチ基板の端子 C1、C2 に配線し、C1、C2 が接触しないように取回してください。また、端子台が破損しますので、**インパクトドライバで締め付けしないでください。**
- リモコンスイッチ基板の端子 C1、C2 と加湿器本体の端子 C1、C2 を接続してください(C1 と C2 の極性はありません)。
- 露出配線を行う場合は、P.11 図-4 をご参照ください。

④配線を挟まないように注意してリモコンスイッチケースを元通り閉じてください。

図-2 リモコンスイッチケースの開け方



※イラストは標準リモコンスイッチで表していますが、ヒューミ付リモコンの場合も同様です。

ケースの損傷に注意

- ❗ リモコンスイッチケースを開ける際は、マイナスドライバの先にウエスを挟むなどの養生を行い、ケースの破損に注意してください。

基板の損傷に注意

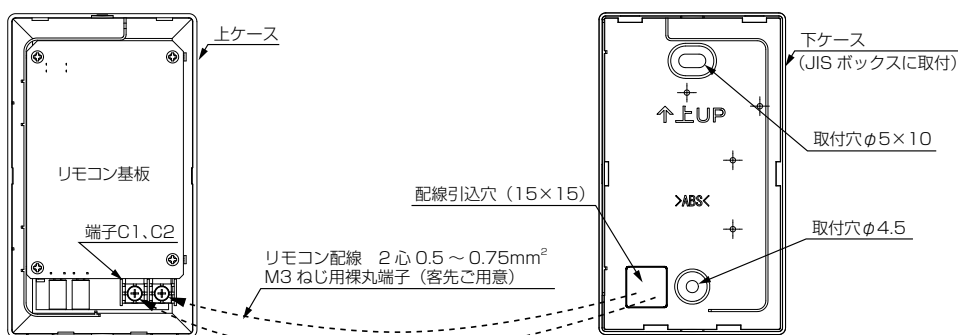
- ❗ リモコンスイッチ基板は上ケースに付いています。ドライバ等で基板を傷つけないように注意してください。

基板の短絡に注意

- ❗ 基板にゴミあるいは水分などが付着しないように注意してください。

図-3 リモコンスイッチの取付と配線要領

標準リモコンスイッチの場合



ヒューミ付リモコンの場合

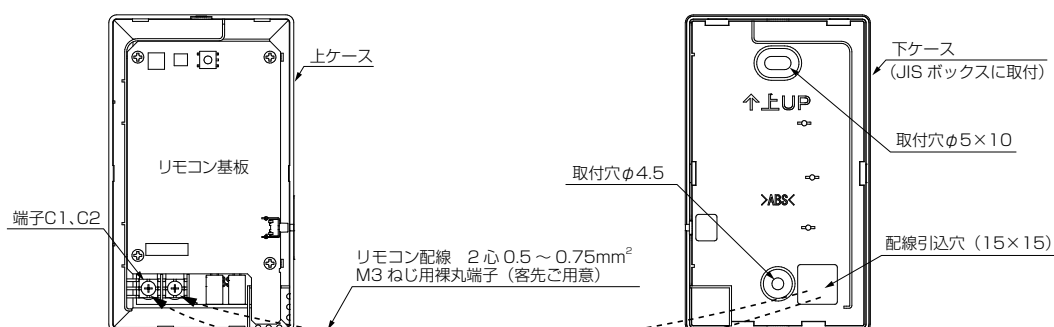
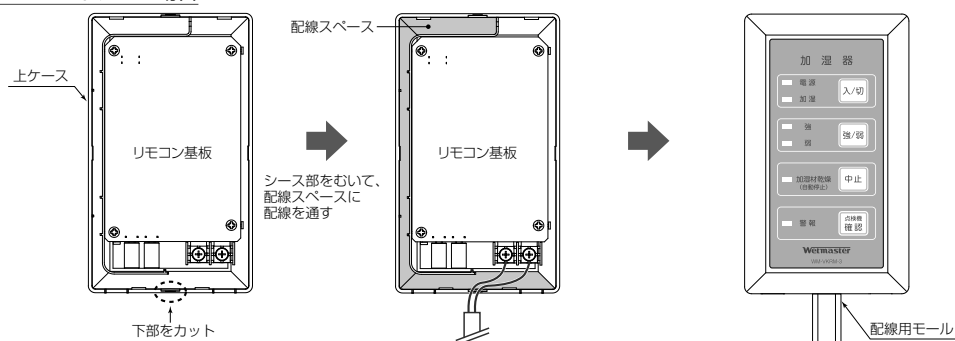


図 -4 露出配線を行う場合

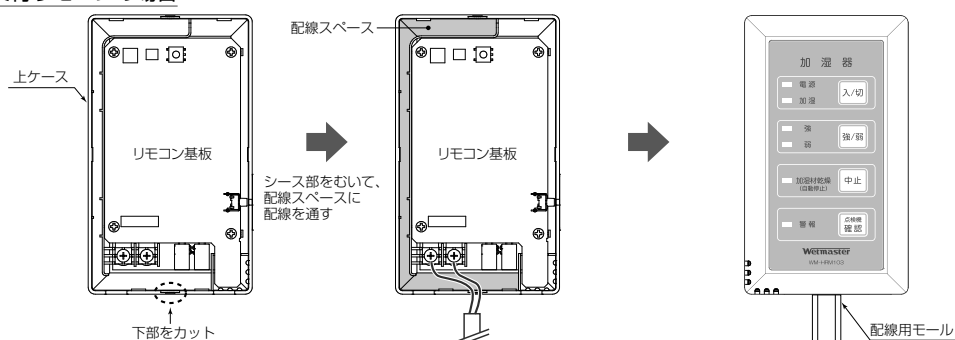
- 配線方向は P.10 の後方引き込みの他に、下記の方法で下方引き込みまたは上方引き込みとすることが出来ます。
- ① 配線方向にあわせてニッパなどで上ケースの薄肉部を切り取り、ヤスリなどでバリをとってください。その際、ケースを割らないように注意して作業してください。
- ② 配線の引き込み方向にあわせてリモコンスイッチケース内に入るケーブルのシース部をむき、下図のように配線を回してください。
- ③ 配線を挟まないように注意して、壁面に取り付けた下ケースに上ケースをはめ合せてください。また、露出配線は上ケースが外れるように注意して配線用モール(客先ご用意)などで処理してください。

【下方引き込みの場合】

標準リモコンスイッチの場合

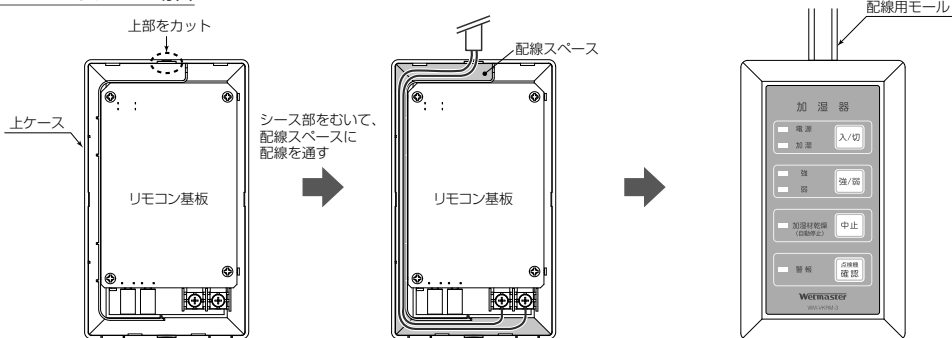


ヒューミ付リモコンの場合

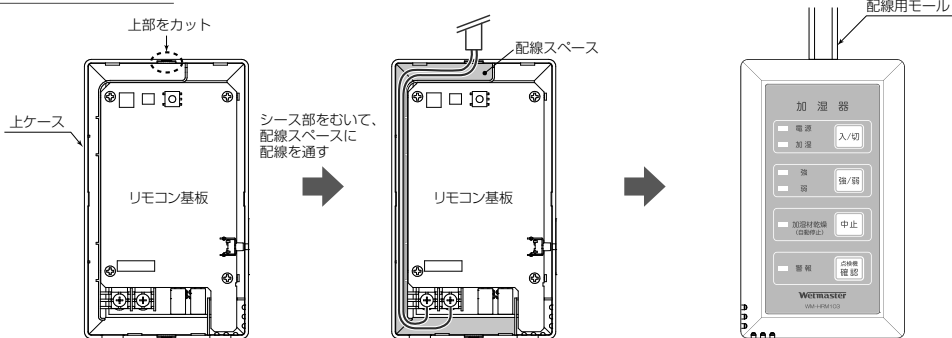


【上方引き込みの場合】

標準リモコンスイッチの場合



ヒューミ付リモコンの場合



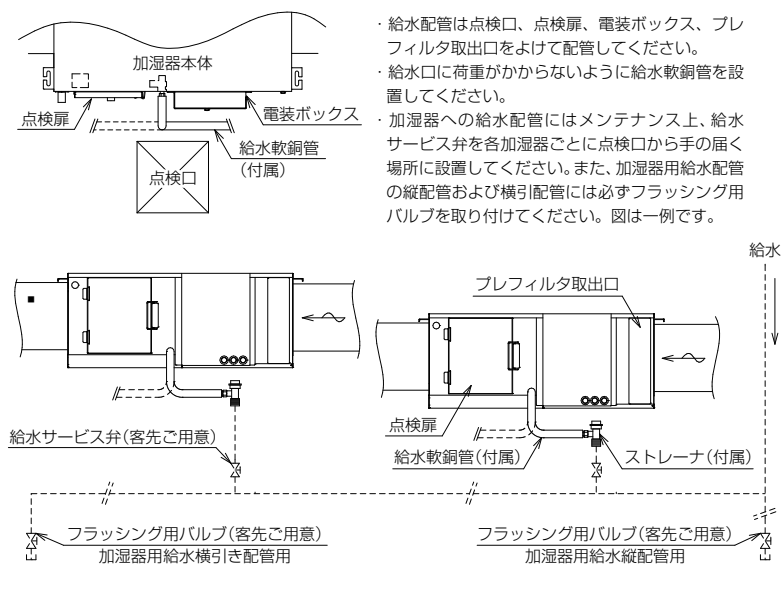
2-2 給排水配管

注意	給排水配管は本書にしたがって確実に給水・排水するように配管し、結露が生じないように断熱する
	❗ 配管工事に不備があると水もれの原因になります。
	上水道直結の配管工事は、当該自治体（水道事業管理者）の認定水道工事業者が施工する
	❗ 本加湿器は給水器具等の認証品です（第三者認証品）。上水道直結の配管工事は、当該自治体（水道事業管理者）の認定水道工事業者が施工し、当該自治体（水道事業管理者）などで指定された給水配管材料をご使用ください。
	加湿用給水配管の縦配管および横引き配管には必ずフラッシング用バルブを取り付ける
	❗ 加湿用給水配管は加湿シーズンオフには通水が無いため、配管内残留水の塩素は消滅します。清潔な加湿を行うために、施工時に限らず加湿シーズンイン時には必ずフラッシングが必要となります。

2-2-1 給水配管

- 加湿器に使用する供給水は、必ず水道法に定められた水道法水質基準に適合した飲料水をご使用ください（上水道の使用を推奨します）。飲料水の水質基準を満足した水でも、地下水・井戸水・地下水を利用した専用水道・工業用水を利用した水の使用では、その含有成分の影響で早期のスケール発生やスケール飛散が生じる場合がありますのでご注意ください。また、軟水器処理水および軟水器処理水と地下水・井戸水・地下水を利用した専用水道・工業用水との混合水は使用しないでください。軟質のスケールが析出し、飛散することがあります。
- ドレン排水用ポンプはレベルセンサ（電極ピン）により水位を検知して運転・停止しますので純水は使用できません。
- 給水サービス弁は各加湿器ごとに点検口から手の届く場所に取り付けてください。また、加湿用給水配管の縦配管および横引き配管には、必ずフラッシング用バルブを取り付け、施工後にもフラッシングが行えるように現場の都合に応じて配管してください。
- 配管に結露が生じないように、必ず保温してください。
- フラッシング用バルブ後に配管を接続する場合、クロスコネクションとならないよう処置してください。
- 給水配管と加湿器本体を接続する前には通水して必ずフラッシング（配管のブロー）を行い、配管内の汚れや異物が加湿器に流入しないようにしてください。
- 給水軟銅管の接続はリングジョイント式です。図-6を参照して、水もれないように確実に接続してください。客先配管との接続は、付属の給水接続接手（R1/2）を使用します。
- 給水配管の施工に配管シーリング剤を使用する場合、配管シーリング剤メーカーの取扱上の注意に準拠してお願いします。また、十分なシーリング剤乾燥時間を確保してください。塗布量が多かったり乾燥が不十分な状態で通水すると、シーリング剤が給水に混ざる形で加湿器本体内に流入することになり、加湿器内でのシーリング剤固化により故障の原因になります。また、配管シーリング剤には有機溶剤成分が含まれているため、加湿器に流入した場合は構成部品に悪影響を及ぼすことがあります。加湿器への通水の前には加湿器給水配管の縦配管および横引き配管のフラッシング用バルブなどから十分なフラッシングを行い、フラッシング実施後の水が無色透明、無臭であることを確認してください。
- フラッシング後は給水サービス弁が「閉」となっていることを確認してください。

図-5 給水配管施工参考図

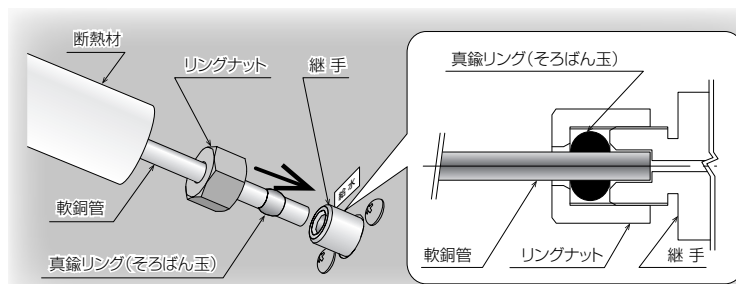


注意

軟銅管は継手部付近からの急な曲げ加工は行わない

❗ 水もれの原因になります。

図-6 給水軟銅管の接続



2-2-2 排水配管

- 排水配管の取り回しは必ず加湿器本体周囲スペースを確保できるようにし、加湿モジュールやフィルタの交換などメンテナンス作業が行えるようにしてください。
- 排水ホースの内径はφ 25 です。本体排水口と客先ご用意の排水配管との間を付属品の排水ホースで接続します。ホースバンドの締め付けトルクは 1.5N・m 程度としてください(図-7)。強く締めすぎるとホースバンド、ホース、本体排水口破損による水もれの原因になります。
- 排水口及び排水配管に排水ホースを接続する際は、排水ホースに有機溶剤(接着剤など)は使用しないでください。排水口の劣化及び排水ホース交換時に不具合が生じるおそれがあります。
- 排水ホースには負荷が加わらないよう施工してください(図-8)。曲げたり・ねじったり・引っ張ると、水もれの原因になります。
- 排水配管は 20A 以上とし、排水主管までは各加湿器ごとに単独になるように配管してください。
- 排水配管は結露を防止するため、保温処理を施してください。
- 排水口および排水ホースに排水配管の荷重がかからないよう施工してください。
- 排水配管途中に山越えやトラップを作らないよう施工してください(図-8)。排水不良の原因となります。また、配管途中にエア抜きは設けないでください。
- メンテナンス用水抜き口には排水配管を接続しないでください。メンテナンス用水抜き口は、ドレンパンの清掃および水抜きを目的としたものです。接続した場合、排水飲み込み不良となる可能性があります(図-7)。

図-7 排水配管の接続

※図は横引き配管の場合を表しています。

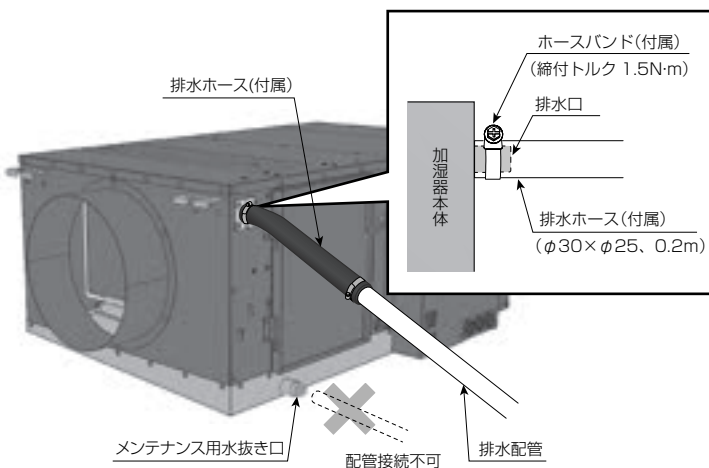
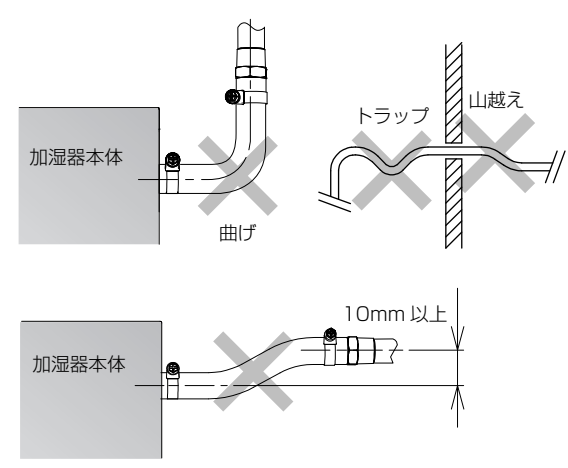


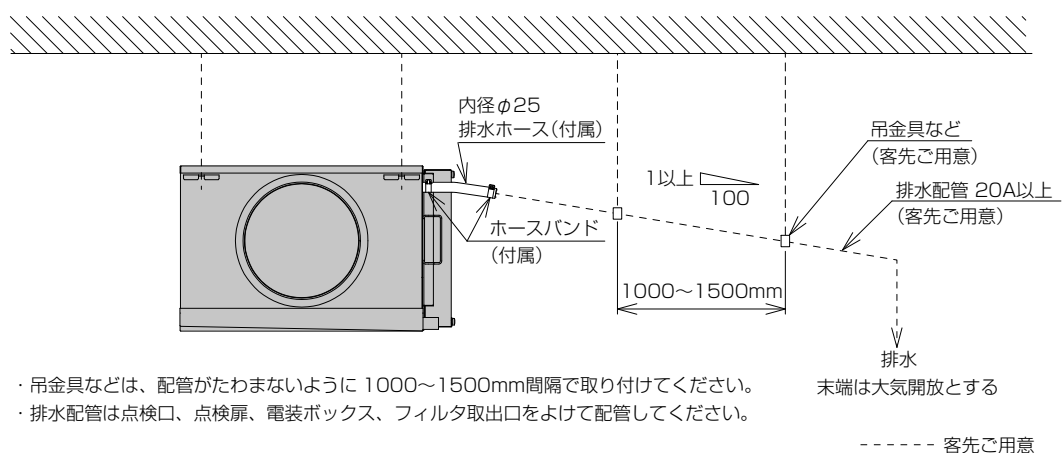
図-8 排水配管の禁止施工例



【横引き配管の場合】

- 横引き配管の場合 20A 以上とし、必ず 1/100 以上の先下がり勾配・大気開放としてください(図-9)。
- 排水勾配が十分に取れない場合は、排水管を立ち上げて施工してください(P.14 図-10 参照)。

図-9 横引き配管の場合

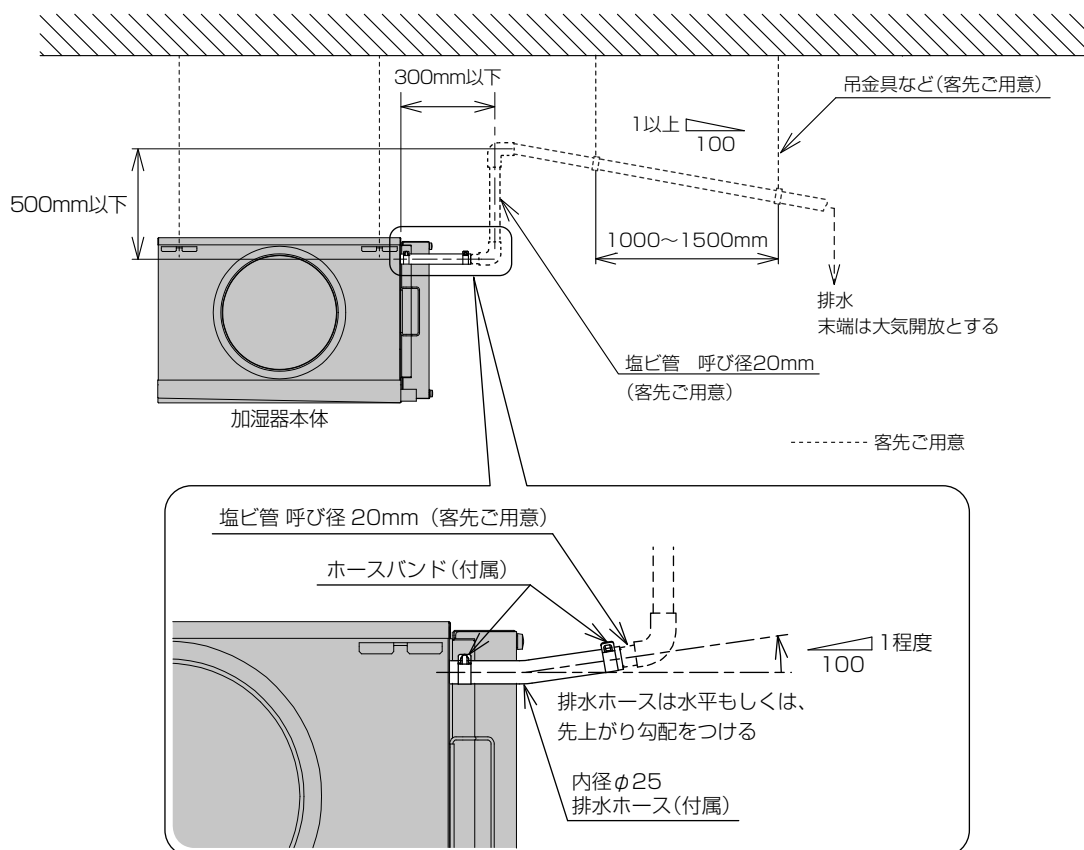


【排水配管を立ち上げる場合】

注意	立ち上げ配管は指定の塩ビ管を使用し、垂直に施工する
	❗ 正しく施工されない場合、水もれの原因になります。
	配管立ち上げ高さは 500mm 以下とし、本体より水平方向に 300mm 以下で垂直に立ち上げる
	❗ 規定以上に立ち上げた場合、ドレン排水用ポンプ停止時にドレン水の逆流による高水位警報発報や水もれなど不具合発生の原因になります。
	排水配管を立ち上げる場合、空気だまりができないよう施工する
	❗ 空気だまりができるとポコポコ音など異音の原因になります。

- 排水配管を立ち上げる場合、立ち上げ配管は塩ビ管（呼び径 20mm）を使用してください。使用しなかった場合、排水量が減少し、排水不良となる原因になります。
- 配管立ち上げ高さは 500mm 以下とし、本体より水平方向に 300mm 以下で垂直に立ち上げてください。規定以上に立ち上げたり、斜めに立ち上げたりした場合、ドレンポンプ停止時にドレン水逆流による高水位警報発生や漏水などの原因になります。また排水ホースにトラップが生じた場合も、同様に高水位警報発生や漏水などの原因になります。
- 排水配管を立ち上げる場合、空気だまりができないよう排水ホースは水平もしくは若干の上り勾配（1/100 程度）を付け、排水ホースに折れや潰れがないようにしてください。空気だまりができるとポコポコ音など異音の原因になります。
- 立ち上げ以後の横引き配管は 20A 以上とし、必ず 1/100 以上の先下がり勾配・大気開放としてください。

図 -10 立ち上げ配管の場合



【市販の内径φ19、φ20 排水ホースを使用して排水配管を立ち上げる場合】



注意

配管立ち上げ高さは 500mm 以下とし、本体より水平方向に 300mm 以下で垂直に立ち上げる

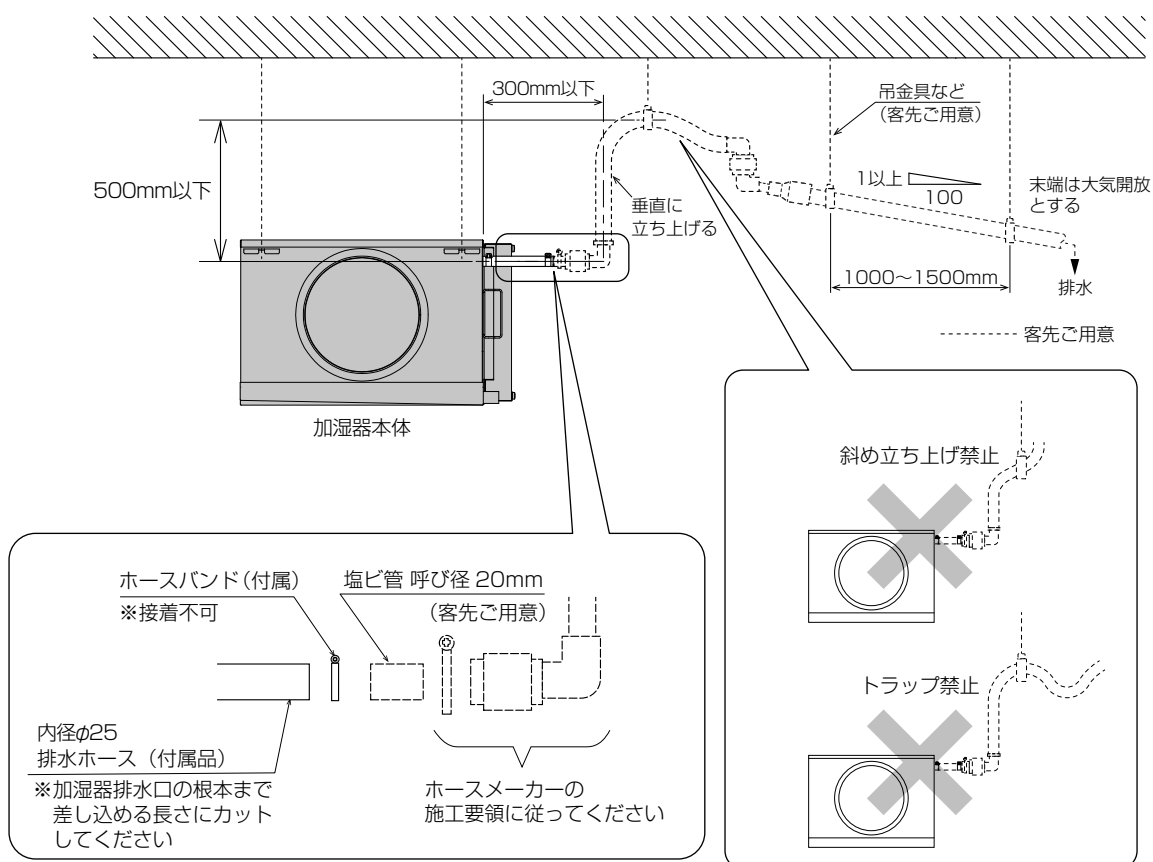
❗ 規定以上に立ち上げた場合、ドレン排水用ポンプ停止時にドレン水の逆流による高水位警報発報や水もれなど不具合発生の原因になります。

排水配管を立ち上げる場合、空気だまりができないよう施工する

❗ 空気だまりができるとポコポコ音など異音の原因になります。

- 市販の内径φ19、φ20 のホースを使用する場合も配管立ち上げ高さは 500mm 以下とし、本体より水平方向に 300mm 以下で垂直に立ち上げてください。規定以上に立ち上げたり、斜めに立ち上げたりした場合、ドレンポンプ停止時にドレン水逆流による高水位警報発生や漏水などの原因になります。また排水ホースにトラップが生じた場合も、同様に高水位警報発生や漏水などの原因になります。
- 立ち上げ以後の横引き配管は 20A 以上とし、必ず 1/100 以上の先下がり勾配・大気開放としてください。

図-11 市販の排水ホースを使用して排水配管を立ち上げる場合



2-3 電気配線

⚠ 警告	電気工事は、電気工事が、「電気設備に関する技術基準」「内線規定」および製品添付の説明書類に従って施工し、必ず専用回路とし、定格の電圧・ブレーカーを使用する
	❗ 電気回路容量不足や施工不備があると、感電、火災の原因になります。
	各配線の接続部にケーブルの外力が加わらないように固定する
	❗ 施工不備があると、感電、火災の原因になります。
	端子台への各配線接続には絶縁丸型端子（M4 ねじ用相当）を使用し、1P あたりの接続は 2 端子までとする
	❗ 3 端子以上接続すると接触不良となり、発煙、火災の原因になります。
⚠ 注意	端子台に接続する絶縁丸型端子は、電線径に適合するものを使用する
	❗ 適合しないものを使用すると線の抜けや接触不良を起こし、感電、火災の原因になります。
	アース接続（D 種接地工事）を行う
⚠ 注意	❗ アースが不完全な場合は、感電の原因になることがあります。
	端子台ねじは、締付トルク 0.5N・m で締め付ける
	❗ インパクトドライバ等で締め付けた場合、端子台破損の原因になります。
⚠ 注意	規定の電源電圧を供給する
	❗ 供給電源は AC100V です。事前に供給電源の種類の確認と該当する端子が AC100V であることを確認し、適切な線材を使用してください。

2-3-1 共通事項

- 電気配線は客先ご用意となります。加湿器電源として専用回路を使用してください。
- 現場の指示等をよくご確認のうえ、確実な電気工事をお願いします。配線にあたっては、表-1 に該当する「結線要領図」を参照してください。使用する加湿器とリモコンスイッチの組み合わせにより配線が異なりますのでご注意ください。
- 加湿器元電源には必ず漏電ブレーカを設けてください。漏電事故防止および保守点検作業時の安全のため必要です。
- リモコンスイッチは必ずご使用ください。リモコンスイッチを使用しないと運転できません。リモコンスイッチ 1 個で加湿器本体 10 台まで同時制御を行うことができます。
- 1 つの制御グループに複数台の VIB2700A/VIB5200A を使用する場合、組み合わせによって一部対応できない制御方法があります。また対応可能な制御の場合でも、別途設定が必要になります。詳細につきましては、別冊の設定要領書を参照してください。
- 電源ラインを加湿器端子台で渡らせる場合は、端子台定格容量を超えないよう 4 台以下としてください。
- リモコンスイッチの配線は、P.10「2-1-2 リモコンスイッチの取付と配線要領」も参照してください。
- リモコンスイッチ配線（リモコンスイッチ⇄本体 1）および本体渡り線（本体 1 ⇄ 本体 2…）の信号配線の総配線長は 100m 以内としてください。
- リモコンスイッチと加湿器本体を結線した後、加湿器の運転前にはリモコンスイッチ初期設定が必要です。リモコンスイッチ初期設定を行わないと運転することが出来ません。別冊の設定要領書に従って設定を行ってください。
- 運転信号および警報信号を使用する場合は、別冊の設定要領書を参照し設定を行ってください。
- 外部指令信号入力で発停を行う場合には別冊の設定要領書を参照し設定を行ってください。グループを一括制御する場合は表-1 に該当する「結線参考図」を参照し、結線してください。
- 強電の電源ラインと弱電の信号ライン（C1、C2、L1、L2、1、2、3、4）は分けて配線してください。同一管路内に納めて配線すると、誤動作の原因になります。
- 必ずアース接続（D 種接地工事）を行ってください。アースが不完全な場合は、感電の原因になることがあります。

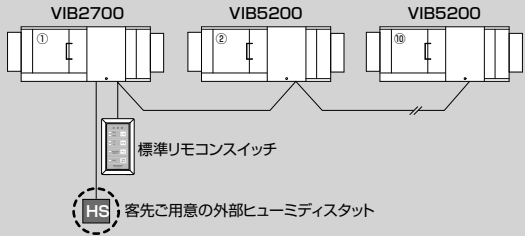
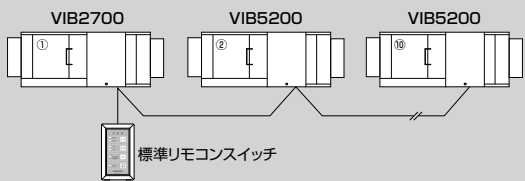
表-1 加湿器本体とリモコンスイッチの各組み合わせにおける各種図面の参照ページ

加湿器本体	VIB2700/VIB5200		VIB2700A/VIB5200A	
	標準リモコンスイッチ	ヒューミ付リモコン	標準リモコンスイッチ	ヒューミ付リモコン
結線要領図	P.18	P.20	P.22	P.24
結線参考図	P.19	P.21	P.23	P.25

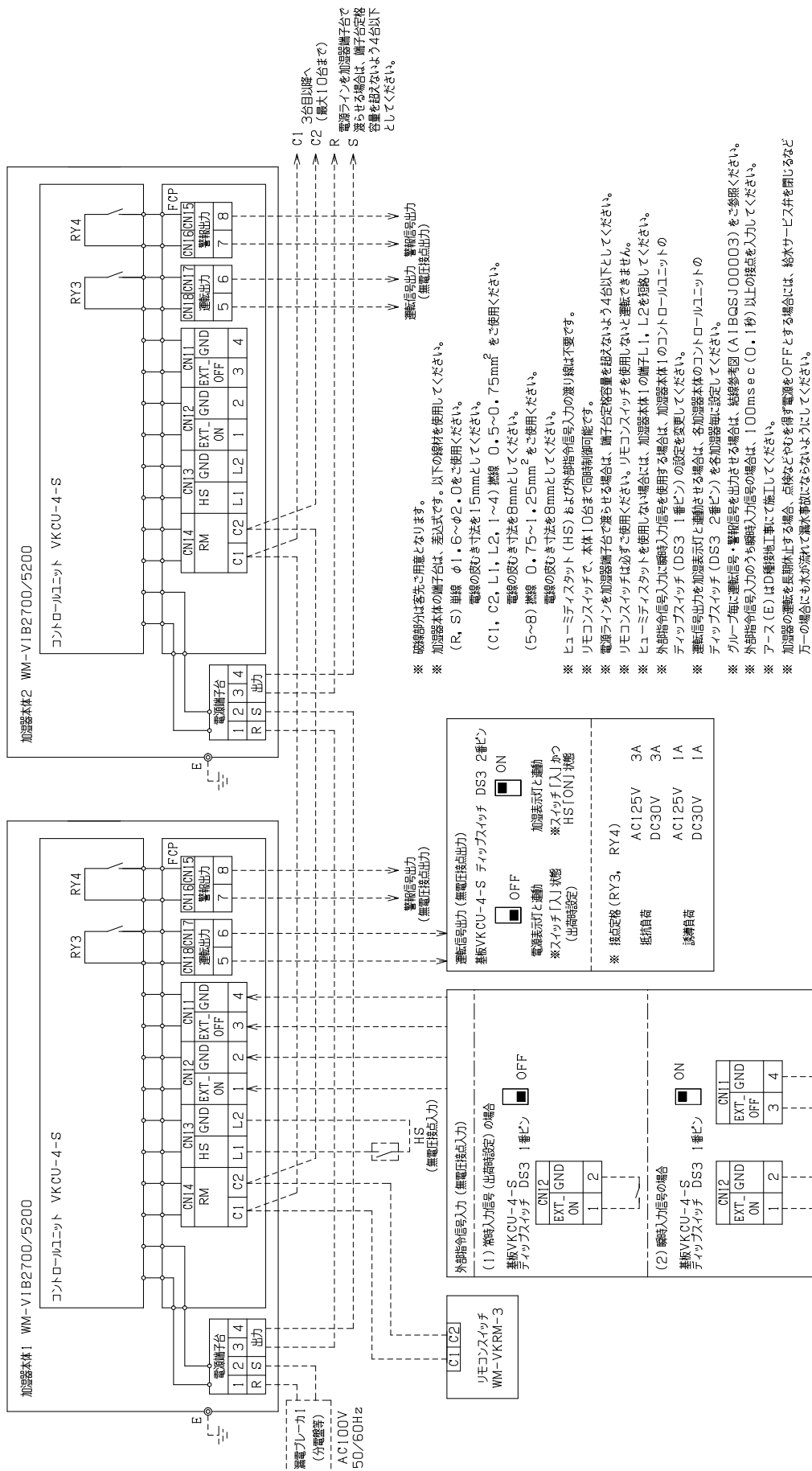
2-3-2 VIB2700/VIB5200 と標準リモコンスイッチの組み合わせで使用する場合

- 客先ご用意の外部ヒューミディスタットについては表-2 を参照し、配線を行ってください。

表-2 外部ヒューミディスタット有無における注意事項

外部ヒューミディスタットの有無	注意事項
外部ヒューミディスタットを使用する場合  標準リモコンスイッチ 客先ご用意の外部ヒューミディスタット	▪ 1 つのリモコンスイッチで複数台制御する場合、ヒューミディスタットを複数個使用して各加湿器を個別に制御することはできません。必ずヒューミディスタットとリモコンスイッチは 1 対 1 となるようにしてください。 ▪ ヒューミディスタットは湿度低下で接点が ON となる形式で、接点容量 100V・2A 以上のものをご用意ください。ヒューミディスタット 1 個で加湿器 10 台まで同時制御を行います。 ▪ ヒューミディスタットは、P.18 「WM-VIB2700/5200 結線要領図」を参照し「加湿器本体 1」の端子 L1、L2（無電圧接点）に接続してください。 ▪ 1 つのリモコンスイッチで複数台制御する場合でも端子 L1、L2 への接続は「加湿器本体 1」のみで全数の運転制御ができます。
外部ヒューミディスタットを使用しない場合  標準リモコンスイッチ	▪ ヒューミディスタットを使用しない場合、P.18 「VIB2700/5200 結線要領図」を参照し「加湿器本体 1」の端子 L1、L2 を短絡してください。L1、L2 が短絡されない場合、加湿器は運転しません。 ▪ 1 つのリモコンスイッチで複数台制御する場合でも端子 L1、L2 の短絡は「加湿器本体 1」のみで全数の運転制御ができます。

3 各種図面

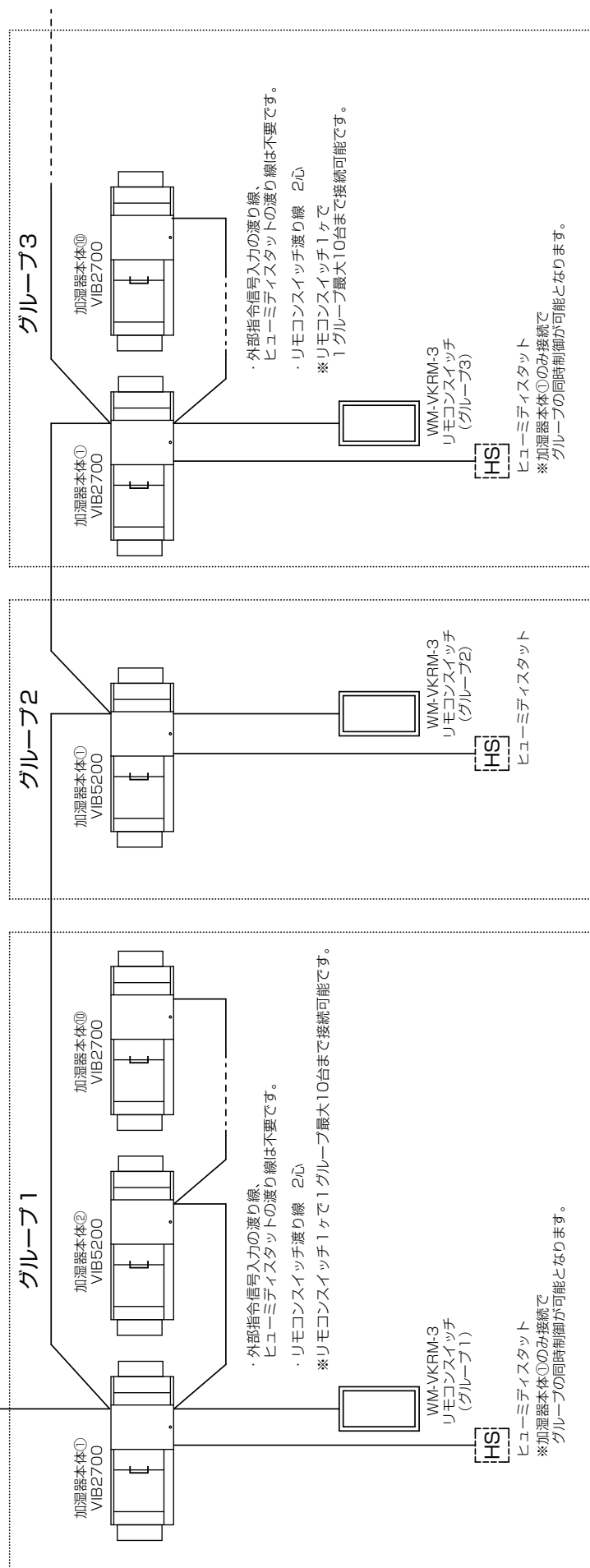


図面名称	ウエットマスター VIB		
作成日	2018/01/11	WM-VIB2700/5200 (標準リモコンスイッチ)	
更新日	2021/12/27	部品コード ウエットマスター株式会社 WETMASTER CO., LTD	
図番	AIBQSJ00001 訂正回数 4 葉別 1/1		

●WM-VIB2700/5200 複数グループを外部指令信号入力（遠方発停）で一括制御する場合の結線例

※外部指令信号線の配線径と総配線長から、接続可能な最大グループ数が変わります。
下表の「一括制御できるグループ数」を参照してください。

外部指令信号入力
（常時接点または瞬時接点）



必ず1グループに1つリモコンスイッチが必要です。リモコンスイッチ無しでの運転はできません。

外部指令信号入力は常時入力（2心×1本）または瞬時入力（2心×2本）、無電圧接点入力となり、各グループにおける加湿器本体①のみの結線となります。

※加湿器本体コントロールユニットのディップスイッチで常時入力または瞬時入力を選択してください。なお、出荷時は常時入力の設定となっています。

一括制御できるグループ数

※外部指令信号入力の接点容量は、50グループまでの接続の場合1A以上、100グループまで接続の場合1.5A以上、200グループまで接続の場合3A以上としてください。

外部指令信号線	総配線長		
	0.75mm ²	1.25mm ²	2.0mm ²
配線径	140グループ	200グループ	260グループ
	70グループ	160グループ	115グループ

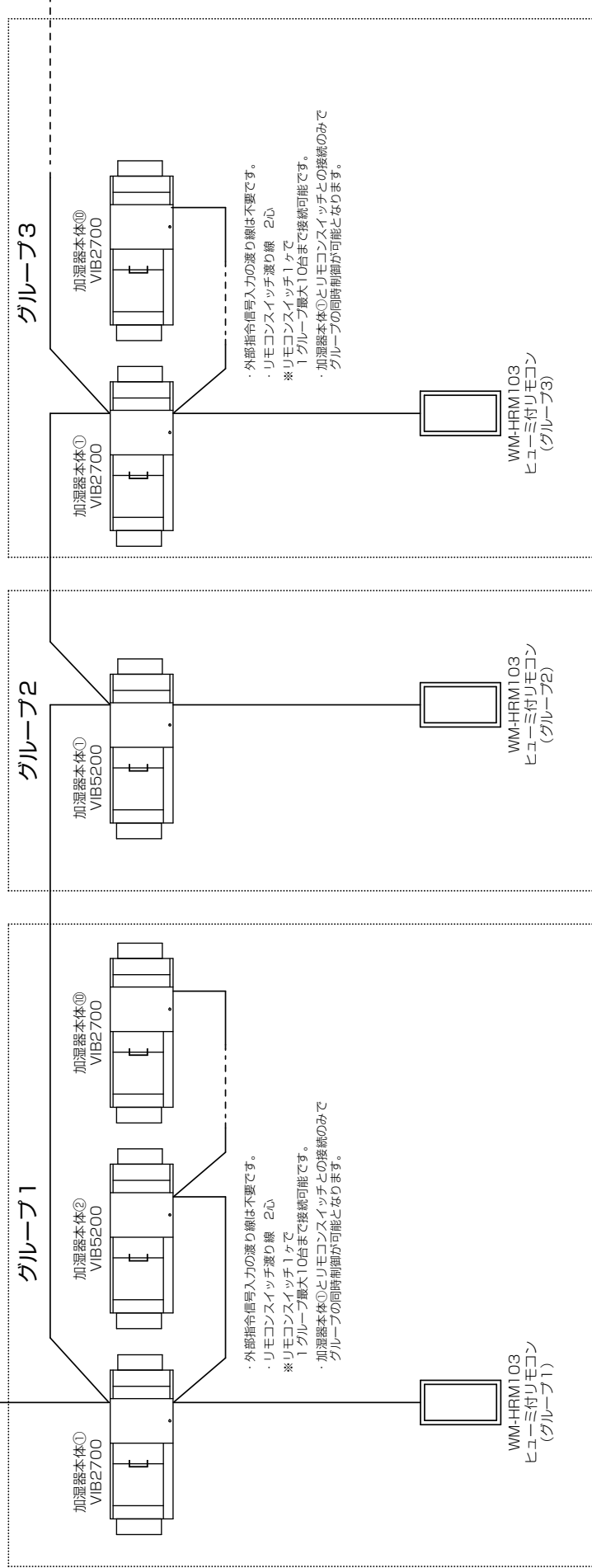
作成日	2018/01/16	図面名称	ウェットマスター VIB
更新日	2021/12/27	部品コード	WM-VIB2700/5200 (標準リモコンスイッチ)
図番	AIBQSJ00002	訂正回数	2
		葉別	1/1

ウェットマスター株式会社
WETMASTER CO., LTD

●WM-VIB2700/5200 複数グループを外部指令信号入力（遠方発停）で一括制御する場合の結線例

※外部指令信号線の配線径と総配線長から、接続可能な最大グループ数が変わります。
下表の「一括制御できるグループ数」を参照してください。

外部指令信号入力
(常時接点または瞬時接点)



必ず1グループに1つリモコンスイッチが必要です。リモコンスイッチ無しでの運転はできません。

外部指令信号入力は常時入力（2心×1本）または瞬時入力（2心×2本）、無電圧接点入力となり、各グループにおける加湿器本体①のみの結線となります。

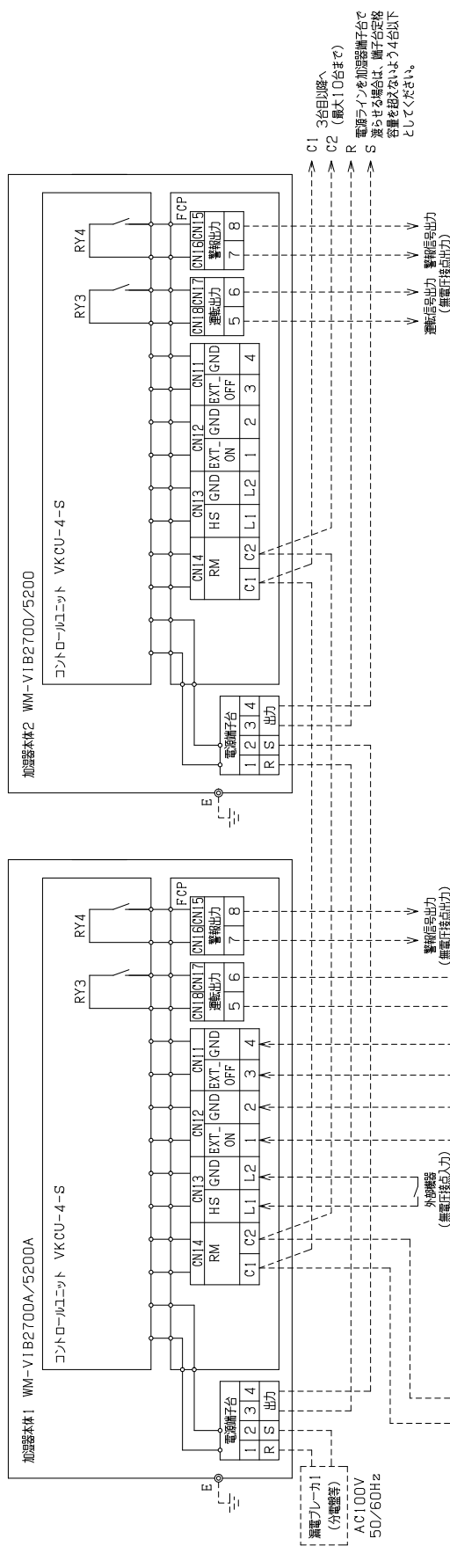
※加湿器本体コントロールユニットのディップスイッチで常時入力または瞬時入力を選択してください。なお、出荷時は常時入力の設定となっています。

一括制御できるグループ数

※外部指令信号入力の接点容量は、50グループまでの接続の場合1A以上、100グループまで接続の場合1.5A以上、200グループまで接続の場合3A以上としてください。

外部指令信号線	総配線長		2000m
	配線径	0.75mm ²	90グループ
	1.25mm ²	200グループ	115グループ

作成日	2018/03/19	図面名称	ウェットマスター VIB
更新日	2021/12/27	部品コード	WM-VIB2700/5200 (ヒューミ付リモコン付属)
図番	AIBQSJ00102	ウェットマスター株式会社 WETMASTER CO., LTD	結線参考図
		訂正回数	2
		葉別	1/1



- ※ 破線部分は先ご用意となります。
- ※ 加算器本体の端子台は、差込式です。以下の線材を使用してください。
(R, S) 線径 $\phi 1.6 \sim \phi 2.0$ をご使用ください。
電線の径むき寸法を15mmとしてください。
(C1, C2, L1, L2, L3, L4) 線径 $\phi 0.5 \sim \phi 0.75$ mm² をご使用ください。
(5~8) 線径 $\phi 0.75 \sim 1.25$ mm² をご使用ください。
電線の径むき寸法を8mmとしてください。
- ※ 外部指令信号入力の線は不要です。
- ※ リモコンスイッチで、本体10台まで同時制御可能です。
- ※ 電源ラインを加算器端子台で繋げる場合は、端子台定格容量を超えないよう4台以下としてください。
- ※ リモコンスイッチは必ずご使用ください。リモコンスイッチを使用しないと運転できません。
- ※ 外部指令信号入力に瞬時入力信号を使用する場合は、加算器本体1のコントロールユニットのディップスイッチ (DS3 1番ピン) の設定を変更してください。
- ※ グループ毎に運転信号・警報信号を出力させる場合は、仕様参考図 (AIBQSJ00003) をご参照ください。
- ※ 運転信号出力を運転表示灯に接続させる場合は、各加算器本体のコントロールユニットのディップスイッチ (DS3 2番ピン) を各加算器本体に設定してください。
- ※ 外部機器との連動運転を行う場合は加算器本体端子台 L1, L2 (無電圧接点入力) に接続し、ヒューミテリユニットのディップスイッチ (S1 4番ピン) をONにしてください。
- ※ 外部指令信号入力のうち瞬時入力信号の場合は、100msec (0.1秒) 以上の接点を入力してください。
- ※ アース (E) はD種接地工事にて施工してください。
- ※ 加算器の運転を長期休止する場合は、点検などやむを得ず電源をOFFとする場合には、給水サービスを要するなど万の場合にも水が流れて漏水事故にならないようにしてください。

※ 通電電圧 / 電流	
外部指令信号入力 (L1, L2, L3, L4)	: DC12V/DC10mA
外部機器との連動運転入力 (L1, L2)	: DC 5V/DC 1mA

作成日	2018/03/27	図面名称	ウェットマスター VIB
更新日	2021/12/27	部品コード	WM-VIB2700A/5200A (標準リモコンスイッチ)
図番	AIBQSJ00201	訂正回数	6
		葉別	1/1

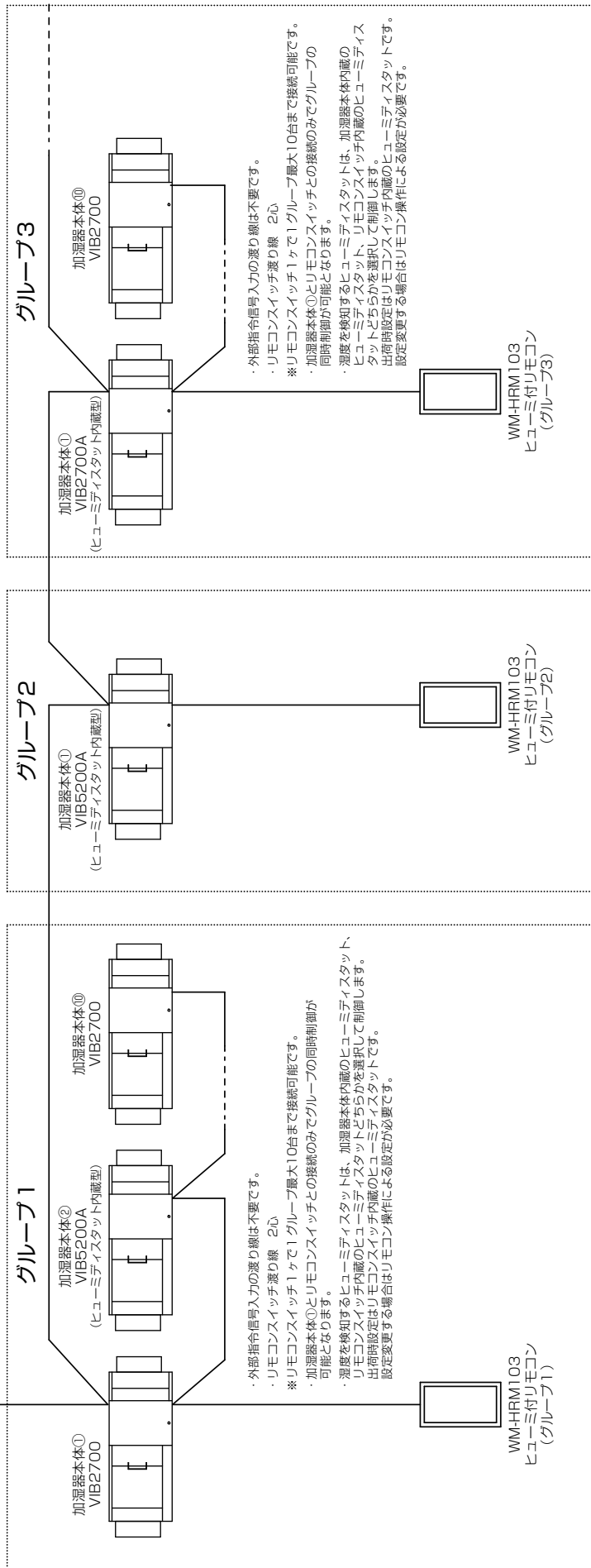
結線要領図

ウェットマスター株式会社
WETMASTER CO., LTD

●WM-VIB2700A/5200A 複数グループを外部指令信号入力（遠方発停）で一括制御する場合の結線例

外部指令信号入力
（常時接点または瞬時接点）

※WM-VIB2700A/5200Aは、1グループに1台のみ使用可能です。
※外部指令信号線の配線径と総配線長から、接続可能な最大グループ数が変わります。
下表の「一括制御できるグループ数」を参照してください。



必ず1グループに1つリモコンスイッチが必要です。リモコンスイッチ無しでの運転はできません。

外部指令信号入力は常時入力（2心×1本）または瞬時入力（2心×2本）、無電圧接点入力となり、各グループにおける加湿器本体①のみの結線となります。

※加湿器本体コントローラユニットのディップスイッチで常時入力または瞬時入力を選択してください。なお、出荷時は常時入力の設定となっています。

一括制御できるグループ数

※外部指令信号入力の接点容量は、50グループまでの接続の場合1A以上、100グループまで接続の場合1.5A以上、200グループまで接続の場合3A以上としてください。

外部指令信号線	総配線長	1000m	1500m	2000m
	配線径	0.75mm ²	140グループ	90グループ
		1.25mm ²	200グループ	160グループ

作成日	2018/03/24	図面名称	ウエットマスター VIB
更新日	2021/12/27	部品コード	WM-VIB2700A/5200A（ヒューミ付リモコン付属）
図番	AIBQSJ00302	訂正回数	2
		葉別	1/1

ウエットマスター株式会社
WETMASTER CO., LTD

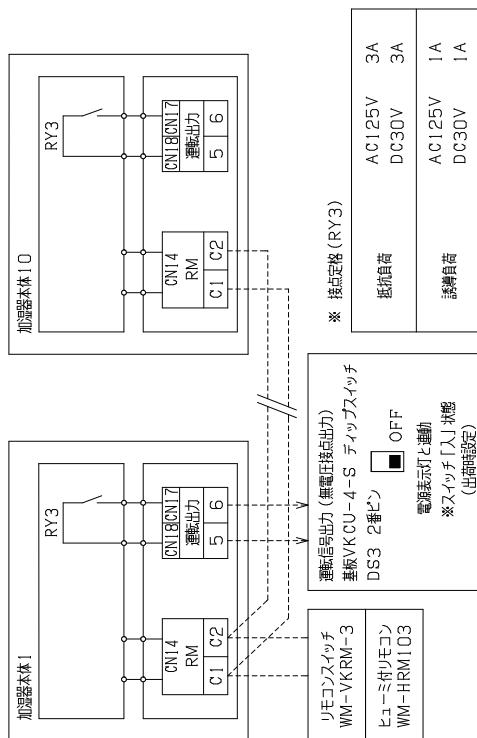
結線参考図

1/1

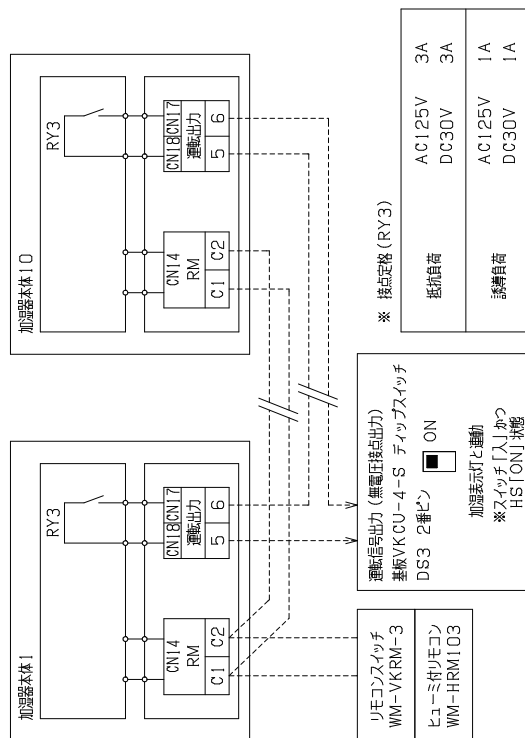
WM-VIB2700/5200, WM-VIB2700A/5200A

グループ毎に「運転信号」・「警報信号」を出力させる結線例

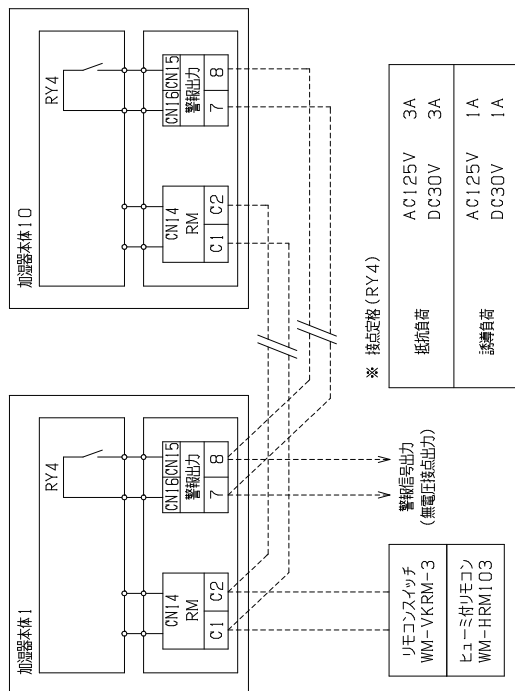
運転信号の出力 リモコンの「電源表示灯」と連動させる場合



運転信号の出力 リモコンの「加温表示灯」と連動させる場合



警報信号の出力



- ※ 破線部分は各先ご用意となります。
- ※ 加温器本体の端子台は、差込みです。以下の線材を使用してください。
(C1, C2) 燃線 0.5~0.75mm² をご使用ください。
電線の径むき寸法を8mmとしてください。
(5, 6, 7, 8) 燃線 0.75~1.25mm² をご使用ください。
電線の径むき寸法を8mmとしてください。
- ※ 「運転信号」「警報信号」以外の配線については配線要領図を確認してください。

作成日	図面名称	ウエットマスター VIB	
2020/08/27		WM-VIB2700/5200	
更新日		WM-VIB2700A/5200A 結線参考図	
2021/12/27	部品コード	ウエットマスター株式会社	
		WETMASTER CO., LTD	
図 番	AIBQSJ00003	訂正回数	2
		発行	1/1

仕様

回路図

施工

施工前の確認事項

4 仕様

4-1 VIB2700/VIB5200

* 50/60Hz は共通仕様

機種・型式		滴下浸透気化式加湿器 VIB	
型番		WM-VIB2700	WM-VIB5200
標準加湿能力	ファン強	2.7kg/h	5.2kg/h
	ファン弱	1.8kg/h	3.5kg/h
	* 上記は、ファン強：機外静圧 70Pa、吸込空気条件 23℃・40%RH、標準風量ファン強時 ファン弱：機外静圧 35Pa、吸込空気条件 23℃・40%RH、標準風量ファン弱時の値です。 標準加湿能力は機外静圧や吸込空気条件により変化しますので、諸条件が異なる場合は仕様書巻末の加湿能力の算出手順でご確認ください。		
標準風量	ファン強	750m ³ /h	1,450m ³ /h
	ファン弱	480m ³ /h	915m ³ /h
	* 標準風量は機外静圧により変化しますので、諸条件が異なる場合は仕様書巻末の加湿能力の算出手順でご確認ください。		
運転音*	ファン強	36dB (A)	38dB (A)
	ファン弱	26dB (A)	29dB (A)
風量切替		リモコンスイッチ強・弱二段切替（二位置式ヒューミディスタット取付可）	
定格電源		AC100V	
定格消費電力	ファン強	130W	235W
	ファン弱	52W	87W
電流値	ファン強	2.1A	3.8A
	ファン弱	0.8A	1.4A
電圧許容範囲		± 10%以内	
本体質量		28kg	44kg
運転時質量		30kg	47kg
ダクトサイズ		丸ダクト接続φ 250	
リモコンスイッチケース色		ホワイト（近似色 マンセル 5Y9/0.5）	
設置・保管条件	本体周囲温湿度	5 ～ 40℃（凍結しないこと） 80% RH 以下	
使用条件	吸込空気温度	5 ～ 30℃（天井内本体周囲温度との差 10℃以内のこと） * 30℃以上になる場合は、弊社宛ご相談ください。	
	給水水質	水道法水質基準に準ずる飲料水	
	給水圧力、温度	0.05 ～ 0.5MPa、5 ～ 30℃	
給水	給水方式	間欠給水方式（TSS 制御） * 運転開始時は加湿器配管内の残留水排出、加湿モジュールの湿潤・洗い流しのためにファンを停止した状態で 10 分間連続給水を行い、その後間欠給水となりファンを運転させ加湿を行います。	
	給水量	間欠給水時（出荷時設定）：0.19ℓ/min ± 20% 連続給水時（最大）：0.24ℓ/min	間欠給水時（出荷時設定）：0.36ℓ/min ± 20% 連続給水時（最大）：0.47ℓ/min
瞬間最大排水量		約 1.5ℓ/min（ドレン排水用ポンプ始動時の瞬間流量）	

* 無響室に設置した加湿器本体の真下 1.5m で計測した騒音レベル（A 特性）です。

4-2 VIB2700A/VIB5200A（ヒューミディスタット内蔵型）

* 50/60Hz は共通仕様

機種・型式		滴下浸透気化式加湿器 [VIB] / ヒューミディスタット内蔵型	
型番		WM-VIB2700A	WM-VIB5200A
標準加湿能力	ファン強	2.7kg/h	5.2kg/h
	ファン弱	1.8kg/h	3.5kg/h
	* 上記は、ファン強：機外静圧 70Pa、吸込空気条件 23℃・40%RH、標準風量ファン強時 ファン弱：機外静圧 35Pa、吸込空気条件 23℃・40%RH、標準風量ファン弱時の値です。 標準加湿能力は機外静圧や吸込空気条件により変化しますので、諸条件が異なる場合は仕様書巻末の加湿能力の算出手順でご確認ください。		
標準風量	ファン強	750m ³ /h	1,450m ³ /h
	ファン弱	480m ³ /h	915m ³ /h
	* 標準風量は機外静圧により変化しますので、諸条件が異なる場合は仕様書巻末の加湿能力の算出手順でご確認ください。		
運転音*	ファン強	36dB (A)	38dB (A)
	ファン弱	26dB (A)	29dB (A)
風量切替		リモコンスイッチ強・弱二段切替（二位置式ヒューミディスタット取付可）	
定格電源		AC100V	
定格消費電力	ファン強	130W	235W
	ファン弱	52W	87W
電流値	ファン強	2.1A	3.8A
	ファン弱	0.8A	1.4A
電圧許容範囲		± 10%以内	
本体質量		28kg	44kg
運転時質量		30kg	47kg
ダクトサイズ		丸ダクト接続φ 250	
リモコンスイッチケース色		ホワイト（近似色 マンセル 5Y9/0.5）	
設置・保管条件	本体周囲温湿度	5～40℃（凍結しないこと） 80%RH 以下	
使用条件	吸込空気温度	5～30℃（天井内本体周囲温度との差 10℃以内のこと） * 30℃以上になる場合は、弊社宛ご相談ください。	
	給水水質	水道法水質基準に準ずる飲料水	
	給水圧力、温度	0.05～0.5MPa、5～30℃	
給水	給水方式	間欠給水方式（TSS 制御） * 運転開始時は加湿器配管内の残留水排出、加湿モジュールの湿潤・洗い流しのためにファンを停止した状態で 10 分間連続給水を行い、その後間欠給水となりファンを運転させ加湿を行います。	
	給水量	間欠給水時（出荷時設定）：0.19ℓ/min ± 20% 連続給水時（最大）：0.24ℓ/min	間欠給水時（出荷時設定）：0.36ℓ/min ± 20% 連続給水時（最大）：0.47ℓ/min
瞬間最大排水量		約 1.5ℓ/min（ドレン排水用ポンプ始動時の瞬間流量）	
湿度設定範囲		35～70%RH * 出荷時のヒューミディスタット設定湿度は 40%RH です。設定湿度は、加湿器本体内部ヒューミディスタットユニットのディップスイッチの切り替えにより 5%単位で変更が可能です。	
湿度設定ヒステリシス		－ 5%RH	

* 無響室に設置した加湿器本体の真下 1.5m で計測した騒音レベル（A 特性）です。

施工前の確認事項

施工

各種図面

仕様

4-3 ヒューミ付リモコン

機種	ヒューミ付リモコン
型番	WM-HRM103
本体周囲温湿度	5 ～ 40℃（凍結しないこと） 30 ～ 90% RH 以下（結露しないこと） * 当リモコンスイッチは室内専用です。室内に設置する場合においても、湯気、水しぶき、油などのかからない場所へ設置してください。
湿度設定範囲	35 ～ 70% RH * 出荷時のヒューミディスタット設定湿度は 40% RH です。設定湿度はリモコンスイッチ操作により 5% 単位で変更が可能です。
湿度設定ヒステリシス	－ 5% RH
リモコンスイッチケース色	ホワイト（近似色 マンセル 5Y9/0.5）
リモコンスイッチ初期設定	加湿器本体とリモコンスイッチの接続時にアドレスの設定が必要となります。 * リモコンスイッチのオートアドレス機能により当該リモコンスイッチに接続されている本体接続台数を認識、設定します（リモコンスイッチ操作と表示灯の点滅回数で接続台数が確認できます）。

ウェットマスター株式会社

本社営業本部 〒161-8531 東京都新宿区中落合 3-15-15 WM本社ビル TEL.03-3954-1101

●加湿器のメンテナンス、リニューアルに関するお問い合わせは、最寄りの各拠点へご連絡ください。

保守・サービス営業本部 〒161-8531 東京都新宿区中落合 3-15-15 カスタマーセンター TEL.03-3954-1110

大 阪 支 店 〒540-0024 大阪市中央区南新町 1-1-2 タイムスビル TEL.06-4790-6606

名古屋営業所 〒464-0858 名古屋市千種区千種 1-15-1 ルミナスセンタービル TEL.052-745-3277

仙 台 営 業 所 〒981-3133 仙台市泉区泉中央 3-27-7 TEL.022-772-8121

福 岡 営 業 所 〒812-0004 福岡市博多区榎田 2-1-10 TEL.092-471-0371

●業務用・産業用各種加湿器

●流量管理システム機器／エアロQシステム・カラムアイ

<https://www.wetmaster.co.jp>